

看護学教育評価
評価報告書

受審校名 東京慈恵会医科大学医学部看護学科

(評価実施年度) 2021 年度

(作成日 2022 年 3 月 11 日)

一般財団法人 日本看護学教育評価機構

I. 総合判定の結果

(適合 不適合 保留)

認証期間：2022年4月1日～2029年3月31日

II. 総評

東京慈恵会医科大学医学部看護学科は、大学の建学の精神を礎に医師と看護師の連携・協力を軸とするチーム医療を看護学科設立の理念としている。看護学科の教育理念「人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる看護の基礎的能力を養い、看護学の発展に貢献できる創造性豊かな資質の高い看護実践者を育成する」を具体化した5教育目標を設定している。さらに教育目標と整合性があるディプロマ・ポリシー（以下、DPとする）、そのDPとの関連が明確なカリキュラム・ポリシー（以下、CPとする）を示している。

教育課程は、理念・目標、ポリシーと一貫しており、学年進行に伴い専門性を高めていく体系的な編成となっており、偏りなく知識や技術が習得できる科目の構成と学年配置であることが確認できる。また、地域連携看護学実践研究センターを設立し、教育目標・教育内容等に反映させるべく地域の特性やニーズに関する調査を行っている。加えて、8つのDPは、それぞれ4段階の到達レベルがループリックで示されており、学生自身が達成度を評価し、eポートフォリオに蓄積して、学年進行に沿って継続的に達成度を振り返る仕組みがある。

教育内容はDP、CPに基づいて設定され、各科目の到達目標、評価方法・判定基準は目標との関連が認められる。教育方法に関しては、授業ごとに目標達成に適した方法を採用し、学生の主体的な学びを促進している。特に、4年一貫の演習科目「看護総合演習」は、看護学の基礎的な内容から専門性の高い内容へと段階的な広がりや深まりのある教育内容を構成している優れた取り組みである。また、臨地実習における実習指導体制の充実に向けて、全実習施設の実習指導者を対象とした臨地実習連絡会の開催、東京慈恵会医科大学附属病院看護部との合同会議を発足させる等、臨地教育の質向上に向けての機能的・組織的な連携を図る取り組みに努めている。

学修成果および教育課程の評価は、学生による授業評価、eポートフォリオを用いたDPの達成度の学修成果に関わる各種データをFD・SD委員会とカリキュラム委員会がまとめ、IR委員会が統合して関連する委員会に改善を提言すると共に、看護学科内部質保証推進委員会が次年度の活動目標への反映を依頼する等、多面的・重層的な仕組みでPDCAを促進しており、優れた取り組みとして評価できる。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシー（以下、APとする）に基づいて実施されており、毎年、入試委員会による検証および第三者による入試委員への個別ヒアリングの実施により入学試験の改善が図られている。

教員組織は、個々の学生の学習状況に合わせた教育を提供することができる教員数を確保しており、アドバイザー制度を設け、低学年へのきめ細かな支援体制がとられており、実習におけるハラスメント等についても、学生は相談しやすく守られていると評価していることから優れた取り組みと評価できる。

教員の教育・研究能力の向上に対する取り組みとして、定期的なFDの実施、看護学科内の競争的研究費制度、大学の研究支援課による外部資金獲得のための支援、若手教員の共

同研究への参加の促進等、様々な形での教育・研究能力向上のための支援体制が取られていることは高く評価できる。

一方、看護学科 Balanced scorecard（以下、BSCとする）でワークエンゲージメントの高い組織の実現を目指してバランスのとれた個人目標の達成について継続的な評価をしているが、教員の研究時間の確保につながるような取り組みが示されていないことが残念である。教員の教育負担の公平性、各委員会時間の短縮化、エフォート達成に対する自己評価の確認など、組織的で積極的な取り組みを期待したい。

全体的に看護学教育の自己点検・評価と改善への積極的な姿勢が示されており、今後とも特色ある取り組みを恒常的に点検・評価し、看護学教育をさらに発展させていくことを期待する。

以上